

八王子市生涯学習審議会会議録（要点筆記）

会 議 名	平成 26 年 11 月 八王子市生涯学習審議会	
日 時	平成 26 年 11 月 10 日（木） 午後 7 時 00 分～9 時 00 分	
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室	
出席者氏名	委 員	三浦真一 浅井揚三 石川智子 小倉艶子 小暮亮 炭谷晃男 小林 正博 碓井恵夫 小宮山博仁 村上ひろみ 岡本夢乃 柴田彩千子 加藤方浩
	事務局	小柳生涯学習政策課長 鶴田主査 川久保主事 新井学習支援課長 村田南大沢図書館長
欠席者氏名		
議 事 案 件	≪議題≫ ・ 新生涯学習プランの策定について	
	≪報告事項≫ ・ 宇都宮市への視察について(放課後子ども教室) ・ 成人式の開催について	
配付資料名	・ 生涯学習プラン素案 ・ リーフレット「中核市 八王子」 ・ とうきょうの地域教育 No.117	
	<p>1. 開 会</p> <p>2. 定足数の確認 出席者 13 名、会議の成立を確認</p> <p>3. 会議録署名委員 碓井委員を指名</p> <p>4. 議 事</p> <p><議事案件> 新生涯学習プランの策定について 前回までの意見を反映し、会議に先立ち資料を送付。また、国や都の動向から生涯学習の概念について冒頭部分に記述するよう一部変更している。本日は基本理念について意見をいただきたい。また、「子どものころからの学びの基礎づくり」という表現が、学校教育を連想させるという意見がある。その部分についても委員の意見を伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">説明者：鶴田主査</p> <p>「学習プランの概要」について</p> <p>委 員：現在文科省が提唱している生涯学習とは 2000 年以降の OECD の影響が強い。1965 年ユネスコによる生涯学習のことを記述すると古い印象を与えかねない。近年の生涯学習の概念を記述したほうが良いのでは。</p>	

事務局：「1965年ユネスコによる生涯外学習」の記述を除き、近年の社会情勢から、現代における生涯学習の必要性を記述する意見もある。

副会長：OECDは子どもの学力について主に調査しているのではないかと。子どもに対する支援という印象が強くなる。

会長：生涯学習支援は子どもから大人まで全世代に渡るものである。概念を記述することが適切か否かも検討が必要。

委員：ユネスコの提唱により生涯学習が世界的に広がり、日本においても中央教育審議会が社会教育から生涯学習への転換として打ち出しているため、この記述があっていいと考える。

会長：あくまでもこの部分は総論的なものである。

委員：現文はわかりやすく、「生涯学習のはじまり」がわかるため、このままでも良いのではないかと。

会長：現文でいいという意見がでたが、よろしいかと。

委員：(異議なし)

「八王子市の現状」について

委員：現プランの成果について、いちよう塾受講者は現プラン策定後、受講者数が減っていることがグラフから読み取れる。しかしながら、実施講座数が減少していることが理由であり、1講座あたりの受講者数は変わっていない。全体の受講者数減少の理由や分析を記述すべき。減少していることを述べるとともに、今後発展させるような表現にしていきたい。様々な理由があると思うが、検討課題であることは事実である。

委員：「八王子学園都市大学は受講者数の減少が見られるが、今後はより一層のPRを期待する。」はどうか。

会長：「一部の講座では減少がみられるものもあるが、生涯楽手センターや出前講座等では受講者数が増えている。」という表現でどうか。委員の意見を参考に事務局で検討いただきたい。

委員：3頁「生涯学習活動の説明」において、市政世論調査において、趣味として学習活動を行っている人が多い。趣味活動も生涯学習活動に含むにも拘らず、「趣味活動を連想させる」という表現は適さないのではないかと。

会長：生涯学習活動に趣味教養活動も含むが、それらを否定しているように捉えられかねない。誤解を与えないよう修正を。

委員：掲載の事業一覧について、市単独実施のものが多い。市民との連携・協働を目指すのであれば、様々な実施形態の事業を掲載した方が良いのでは。

委員：7頁「市民の生涯学習への取り組み状況」グラフにおいて、全世代で示されているが、世代別の方が今後の対策がしやすいのでは。

事務局：市政世論調査におけるデータをそのまま掲載すると、数が膨大

になってしまい、本計画では個々のデータをすべて掲載することは難しい。庁内での検討会等を踏まえ、ページ数との兼ね合いも含め、可能な範囲で掲載したいと考える。

委員：同グラフにおいて、「成果を地域活動に活かして入り市民の割合」を示しているのは良い。利用者数など数字に着目されがちだが、現代においては“質”が重要になると考える。時期の改定では、成果がどのように活かされているか、つながっているかという指標を示すことも検討してほしい。

会長：本プランの文中に掲載できる範囲で載せていただきたい。

委員：7頁の市政世論調査について、「対象者」や、「現役世代」という表現は誰を対象としているかわかりづらいため、脚注またはカッコ書きで年齢を表記した方がよい。

事務局：そのように修正する。

「生涯学習推進のための視点」について

委員：「(5)子どもの頃からの生涯学習を支援する」について学校教育も含まれるか。学校との連携が分かるような文章に修正を。

事務局：学校教育については、個別計画が存在し大半を委ねているが、地域参画等生涯学習の観点からの記述に修正する。

会長：現代の流れとしては、学校が地域に支援するのではなく、学校教育の中で、地域がどのような支援が出来るかが求められている。

事務局：地域運営学校等においても地域が学校を支えるという方向が主流である。

委員：教師は知識や経験が多くあるため、助言等もらう機会をさらに推進してほしい。

「生涯学習プランの推進施策」について

会長：基本理念・基本方針について前回会議後委員各位からご意見を頂戴した。現在・未来をあらわす文言を考えたい。

委員：案の中では「市民と地域が発信する生涯学習」が良いのでは。現プランから1歩進んでいる印象がある。

委員：「生涯学習」という言葉を使わずに、生涯学習が何なのかを具体的に表すことはできないか。

委員：「学園都市八王子」がイメージできるような文言が良いのでは。

委員：八王子ビジョン2022で謳われている「つむぐ」という言葉を使い、「夢をつむぐ」という文言はどうか。

委員：「つむぐ」と「織りなす」では印象が異なる。

委員：言葉やリズムがきれいという観点で考えると、表現が漠然としていてわかりづらいのでは。

委員：基本理念で「学ぶ」を入れると、基本方針「まなぶ いかす つながる」の「まなぶ」のみ強調されてしまうのでは。

- 会 長：「まなぶ いかす つながる」は「八王子ビジョン 2022」でも使われているか。
- 事務局：「八王子ビジョン 2022」では、施策タイトル「市民がつながる生涯学習」であるが、目指す姿として「いつでも どこでも だれでもが学べる生涯学習」というように「まなぶ いかす つながる」が読み取る内容となっている。
- 委員：本市は織物のまちであり、“織り”＝“つなぐ”“なす”＝“活かす”を表現できるのでは。縦糸は世代、横糸は地域としてイメージできる。
- 委員：現プランからの継続した取り組みは「広がり・つながり」を連想される一方で、新しい視点では世代による「違い」が挙げられる。これまでの「広がり・つながり」はさらに充実させ、「違い」を超えた支援をすることをイメージから、「織りなす」という表現も適しているのではないかと考える。
- 会 長：反対に、新しいものを表現してもよいのでは。
- 委員：本市で「織りなす」「つむぐ」という表現をすると、織物をイメージする方が多いと思われる。
- 委員：「未来を織りなす まなびのまち」はどうか。
- 委員：基本理念はシンプルでいいのではないか。「生涯学習」と「八王子」を入れ、「市民が発信する生涯学習 はちおうじ」はどうか。
- 委員：「織りなす」を取り入れ「市民と地域が織りなす 学びのまち」はどうか。
- 委員：当初の「市民と地域が主役のまち」という表現は、行政がマネジメントやサポートをする協働の観点でも良い表現であった。
- 委員：それでは「学びのまち」ではどうか。学園都市としての特色を表現できる。
- 会 長：様々な意見があるが、生涯学習を推進する目的は「まちづくり」であり、「まちづくり」は「ひとづくり」から始まるという共通認識でよろしいか。委員の意見を取り入れ、最終的には会長・副会長と事務局で調整させていただいてよろしいか。
- 委員：（異議なし）

「子ども頃からの学びの基礎づくり」について

- 会 長：この表現が学校教育を連想させるという指摘があったようだが、これに対し意見はあるか。
- 委員：「まなび」を「生涯学習」に変えても良いと思いが、そのままでも良いのではないか。
- 副 会 長：そのままでも良いが、表現が堅いので柔らかい表現に変えても良い。
- 委員：「子ども頃から始める学びの基礎づくり」でどうか。
- 会 長：委員の意見を取り入れ事務局で決定していただきたい。

主な事業では、市主催の事業が例示されているが、共催事業等市民協働がイメージできる事業を示したほうが良いのではという意見があった。これに対していかがか。

事務局：本項目の大きい事業は行政主催のものが多くなってしまっている。

委員：市単独事業が多いのは理解する。しかし、委託等の市民協働がわかるよう表現できないか。

会長：プランに関連事業のすべてを掲載することはできないと思え割れるが、反対に項目ごとに事業を例示する必要性はあるか。

事務局：現プランのように巻末に関連事業を羅列する手法や、項目ごとに例示する手法がある。また、個別の事業名を記載するのでない、例えば「生涯学習センターにおける講座」抽象度を高くしたほうが良いという意見もある。

委員：列挙する場合も分野のバランスを考えていただきたい。

委員：情報収集については、市民ニーズの収集のほか、学習情報の収集という意図を明らかにしていただきたい。

<報告事項>

宇都宮市への視察について(放課後子ども教室)

中核市に伴い、放課後子ども教室の関連で宇都宮市への視察を行った。後日資料にて報告する。

報告者：生涯学習政策課長

平成 27 年成人式の開催について

1 月 12 日（月・成人の日）に平成 27 年成人式を開催する。参加可能な委員は事務局に連絡を。

報告者：事務局

三浦会長：次回は 1 月 29 日（火）午後 7 時から生涯学習センターにて開催する。詳細は別途事務局より通知をする。本日の会議は以上をもって終了する。

5. 閉 会（午後 9 時 10 分）

上会議録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員